

[特集] 福祉作業所スマイル工房の、今とこれから。

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第130号

発行2017.7.16

年4回発行



社会福祉法人そよかぜ

羽村市栄町3-3-1

☎042-578-0855

fax.042-578-0466

そよかぜだより

役員改選が行われました



写真上段左から、堀内理事、田村理事、羽村監事、石田監事。
写真下段左から、田口理事、井上理事、野崎理事長、加藤副理事長。

理事長

野崎功市

副理事長

加藤照夫

理事

田村義明

田口尚子

井上克巳

堀内政樹

監事

羽村義男

石田 茂

今回の役員改選は、社会福祉法改正に伴う暫定任期（平成29年3月7日から定時評議員会開催日まで）満了に伴い、平成29年6月26日に開催された第1回定時評議員会にて

行われ、上記の方々が選任されました。任期は、平成29年6月27日から2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとなります。

野鳥の写真、 掲示50回を期に。

毎月5枚、約4年半にわたり、ひばり園内に野鳥の写真を掲示してくださっていた松浦洋二さん。日本野鳥の会奥多摩支部の会員でもあります。羽村市内で見られる野鳥を中心に、季節ごとに写真を選んで掲示し、ひばり園の利用者さんたちの目を楽しませてくれていました。今年の5月掲示分で50回という節目を迎え、これからは少しのんびりと写真撮影を楽しむということで、写真の掲示を終了しました。長い間、楽しませてくださり、ありがとうございました。





【特集】 福祉作業所スマイル工房の、 今とこれから。

今から25年前、羽村市羽西のアパートの一室で、福祉作業所スマイル工房の前身である〈あやめ共同作業所〉が開設されました。〈あやめ家族会(現:スマイルの会)〉が、心の病を抱える方々が、家に引きこもらず外へ出て活動できる場所が必要だという強い気持ちで立ち上げた施設です。開所当時の利用者は10人に満

たなかったようですが、年々人数が増えて手狭になったため、平成11年6月、羽村市羽中にある現在の建物(旧:消費生活センター)に移り、しばらくして、天然酵母パンの製造を始めました。羽中に移転した頃に作業所の名前が〈スマイル工房〉に変わりました。約1年後、クッキーの製造も始まり、パンとクッキーを羽村市農産物直売所及び

リサイクルショップくれよんで販売することになりました。軽作業(内職作業)は、羽西のアパートにいた頃から現在までずっと続けています。作業内容は箱折りや部品入れをはじめ、変遷しながら様々な作業に取り組んできました。現在21名の利用者が通所して、軽作業班とパン・クッキー班に分かれて作業をしています。

写真左から岩田支援員、井上支援員、河村所長、山上支援員、柾元支援員。他、約20名の利用者さんが働いています。

利用者と職員の姿

福祉作業所スマイル工房に通う利用者は、精神疾患いわゆる心の病を抱えながら地域生活を送られています。病気の特徴は、気分の落ち込みや高揚、妄想、幻覚・幻聴、パニック症状ほか様々で、症状の頻度や程度も一人ひとり異なっています。利用者は皆、基本的に薬による治療を受けていますが、中にはカウンセリング(精神療法)を受けられている方もいます。悩ましいのは、病気の結果生じた社会生活や日常生活のしづらさ、いわゆる〈生活障害〉を抱えている事です。例えば、お金の使い方が上手にできない、融通がきかない、集中力や意欲が低下する、人付き合いが苦手、強いこだわり

り、考え方が偏るなどの特徴が見られます。これらは生活の環境(周囲の理解も含めて)によって、度合いが変化します。つまり、障害に対する周囲の理解や生活環境の整備によって〈生活障害〉は軽減されるといえます。もうひとつ言える事は、当たり前にしたことが病気によってできなくなると、戸惑いが生じ、自信を失ってしまう事です。しかし、当事者が本来持っている力を伸ばし、対人関係や生活レベルを高めていくリハビリテーションを行うことで、社会適応力を身につけ、自信を回復し社会復帰に近づくことができます。福祉作業所スマイル工房は、作業をはじめレクリエーション活動を含めた様々

なプログラムを通じて、このようなリハビリの役割を担っています。



面談の様子。

また、職員はそれぞれ異なる障害特性や行動形態を把握した上で、その方が抱える〈生きづらさ〉を念頭に置きながら支援計画を立て、その方に合った働きかけやコミュニケーションを行うなど、個別に対応しています。

作業と行事活動

スマイル工房では大きく分けて、一般企業や他施設から請け負う〈軽作業〉と、自主製品である〈パン・クッキー作業〉を行っています。軽作業では、農耕具部品の袋入れや、使用済イヤホンを利用する為にコードを巻きなおしたり、イヤホンパッドを交換する作業を行っています。パン・クッキー作業では、天然酵母の素材を活かしたパンの仕込み・成型作業やクッキー作りを行っています。羽村市農産物直



①



②

売所や同じ法人が運営するリサイクルショップくれよん、プチひまわりの店(福生の就労支援施設 麦わら帽子が運営)に委託販売していますが、利用者の皆さんが市内高齢者施設や羽村市社会福祉協議会、福祉作業所ひばり園を訪れて対面販売もしています。これらの作業を通じて、働く事の意味を考え、自信を取り戻してやりがいや達成感が味わえることを目指しています。



③

一方、作業以外にも、仲間との交流を深めたり、気分転換やリラックスできる活動も行っています。例えば、日帰りバス旅行、宿泊訓練、クリスマス



④



ス会を3本柱とした大きな行事と、スポーツ、歌、調理実習、いも掘りなどの半日行事、初詣や夏まつり出店など季節に応じた催し物など、様々な行事やイベントに参加することで、ひとりだけでは味わえない体験をすることができると同

時に、行事やレクリエーション活動の実行委員に携われれば、実現に向けて周囲の仲間と一緒に形にしていく過程を経験することで自信につながります。さらに、対面販売を通じて地域との交流を図ることもできます。

行事の様子

- ① フィールドゴルフ
- ② スポーツ講習会
- ③ 西多摩フレンド交流会(合唱)
- ④⑤ 調理実習
- ⑥ はむら夏まつり
- ⑦⑧ 日帰り旅行(羽田空港の整備工場見学)
- ⑨ ボウリング大会

今後の展望

羽西の小さなアパートから始まったスマイル工房は、長い年月を経て少しずつ利用者が増えてきました。その間、精神保健福祉の制度は目まぐるしく変わり、あらたに様々な福祉施策が打ち出されたことで、今まで十分な支援を受けられなかった当事者の方やご家族が、障害福祉サービスの新たな受け手として増加しています。

また、【入院から地域へ】の流れが一般化するなかで、自分らしく生きるために退院して地域で生活する方々も増えてきました。しかし、現状、地域の受け皿はまだ不十分と言わざるを得ません。福祉作業所スマイル工房はそのような地域ニーズに応えるために、定員拡大させた新たな施設を開設することになりました(平成30年10月開所

予定)。現在、施設の新築移転に係る準備を進めています。新たな地では、利用者が快適で安心して過ごせる場を提供するだけでなく、作業活動やレクリエーション活動をますます充実させることで利用者の社会復帰を応援し、さらに地域にお住まいの方々とも交流できる施設作りをしていきたいと思っています。

平成28年度 事業実績概要報告

本年度は、社会福祉法人制度の意義や役割を問い直す社会情勢を背景に、大幅な社会福祉法人制度の改革が行われました。これを受け、当法人では定款の変更に基づく評議員選任・解任委員会の設置及び当委員会による新評議員の選任などが行われました。これに加えて、従来の定款に基づく役員・評議員の任期満了に伴う改選期にもあたり、新・旧定款が同時に存在し、必要に応じてそれぞれを使い分けるといふ、今までに例のない状況の中での事務遂行となりました。

ここ数年の主要課題の一つである福祉作業所スマイル工房新築移転計画は、羽村市当局のご支援により移転候補地も定まり、施設建築費用についても国庫補助の内示をいただくことができました。これを受けて来年度は、平成30年10月の新施設開所に向けた事務が加速することになります。

そよかぜが実施している以下の5事業は、年度を通して特に大きな問題などなく概ね順調に推移することができました。

社会福祉事業

福祉作業所ひばり園 (就労移行支援＝定員6名)

利用者4名が一般企業に就職しました。

福祉作業所ひばり園 (就労継続支援B型＝定員70名)

主力の自動車・農業機械部品等加工作業の受注量が安定し、全体として堅調な作業活動ができました。アクセ

サリーの個装など新しい仕事にも取り組みました。出張所として運営しているリサイクルショップくれよんの売り上げも季節ごとにセールを行い、年度を通して好調でした。

福祉作業所スマイル工房 (就労継続支援B型＝定員20名)

施設移転計画の具体化に向けた事務を進めました。パン・クッキーの製造販売では、キャラクター商品が人気でした。室内軽作業なども順調に推移し、前年度に引き続き高い利用者通所率を維持できました。

指定特定相談支援事業所ゆい

専従スタッフ1名を加え業務の安定化を図りました。前年度実施して好評であった〈成年後見制度の使い方〉をテーマにした学習会を本年度も開催しました。

公益事業

羽村市障害者就労支援センター エール

利用登録者人数が117名(内当年度新規登録者20名)、新規就職者は11名でした。利用者ニーズは多様化傾向にあり対応力強化が求められました。

収益事業

資源回収

市民、地元企業等のご協力により、前年度並みの実績が確保できました。施設外支援の場として、ひばり園利用者支援にも貢献できました。

平成28年度 社会福祉法人そよかぜ決算報告

法人全体 事業別収入 253,520,498円

単位：千円

福祉作業所ひばり園 (就労移行支援・就労継続支援B型) 183,640	福祉作業所スマイル工房40,463→	資源回収4,815→
	指定特定相談支援事業所ゆい2,330→	
	羽村市障害者就労支援センターエール22,271→	

法人全体 事業収入別明細 253,520,498円

単位：千円

就労支援事業 38,283	補助金収入163,014	資源回収売上2,596→	積立金資産取崩収入 49,018
		寄付金収入342→	
		受取利息・その他収入264→	

法人全体 事業支出別明細 253,520,498円

単位：千円

就労支援事業 38,310	人件費127,461	事業費8,442→	積立資産支出55,535
		事務費18,126→	
		固定資産取得支出3,035→	当期収支差額2,608→

※決算報告書の詳細は法人ホームページに掲載いたします。金額は内部取引調整後の値。千円単位の表示のため、合計との差額が発生します。

地域生活での移動支援

先日、運転免許の更新のために運転免許センターに出かけ、高齢の方々が多いことに気づかされました。

視力の検査では高齢の男性の方が視力検査の要領を得ないようで職員と大きな声でやり取りをされていました。ほかにも年配の男性が奥さんに付き添われて来ている方もいました。その男性は、脳卒中を患われたようで高次脳機能障害の後遺症から免許更新が出来るかと

相談されており、診断書を見ながら職員と話されていました。慌ただしく職員の方々も免許更新に来る方の対応に追われていました。

西多摩地域で考えると車などが無いと生活に支障が出ることも多いのではないかと思います。

今回の免許更新に来られていた高齢の方々は、地域的なものもあると思いますが日々の生活で車を運転することが

コラム「福祉の時をつかむ」

欠かせないと察します。

障害福祉を振り返ってみると地域で生活を送るには買い物などのように移動支援は重要であり、社会の理解なども時代とともに浸透されてきたと感じます。高齢者ドライバーの事故がニュースなどで取り出され、高齢者の運転免許証の自主返納制度も行われていますが、高齢の方が地域で安全に生活が送れるための施策が急がれます。

そよかぜホームページ <http://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

4月下旬に入職しました長谷川健蔵と申します(写真中)。福祉の仕事は未経験で、わからないことばかりですが、皆さんから教えていただく一つ一つを大切に、早く仕事を覚えられる様頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

今月、外出イベントとして昭島のモリタウンへ行く予定です。利用者さんたちは先月もらった賞与で昼食や買物を楽しみに、日々の作業もよりいっそう張り切って行っています。

リサイクルショップくれよん

7/17(月)～週替わりセールを予定して

います。第一弾は、『〇っ〇』です。答え合わせもかねて、是非お立ち寄りください。皆さまのお越しを、くれよん一同心よりお待ちしております。併せて、ご提供品もお待ちしております。(ご提供いただける品物についてはホームページまたはスタッフまでお問い合わせください)。

●夏期休業8/12(土)～20日(日)。



福祉作業所スマイル工房

パン・クッキー班の販売用エプロンが新しくなりました。デニム生地のヒッコリー柄(ストライプ)のエプロンで丈が長め、ウエスト部分の紐を前で縛るおしゃれなタイプです。イベントでの販売では個

包装をしていないため、衛生面を考えハンチング帽も被り、最近のおしゃれなパン屋さんのように利用者さんにも好評です。

第42回はむら夏まつりが7/29日(土)、30日(日)に開催されます。パン販売用とは別にこちらもエプロンを新しくし、帽子も被ります。今年も市民模擬店でジャンボフランクとラムネの販売をしますのでは非、お立ち寄り下さい。

障害者就労支援センター エール

エールは、社会福祉法人そよかぜが羽村市の区市町村障害者就労支援事業の委託を受け、平成20年9月に開設した就労支援センターです。羽村市在住の障害のある方で、一般企業等への就職を希望されている方やすでに働いている方を対象に、就労に関するご相談や支援を行なっています。

利用時間：月曜～金曜日、午前9時～午後5時。各月の第一土曜日は開所。
※ご相談は予約をお願い致します。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

先日読んだ本のことです。絵に描かれているキャラクターが絵から出てきて主人公の男性と話しをしながら物語が進むという内容でした。何が印象的だったかというと、主人公の男性が、様々な登場人物や、そのキャラクターの話す言葉に興味深く耳を傾け、仕草や表情も含めたあらゆる表現を受け入れ、理解しようとしていた傾聴の姿勢。きっと小説の中に限らず、私たちの生活や、利用者支援の中でもコミュニケーションの原点のような、とても大切なことのように感じました。

各事業所の連絡先



社会福祉法人そよかぜ事務局	☎042-578-0855
福祉作業所ひばり園	☎042-555-5512
福祉作業所スマイル工房	☎042-578-2723
リサイクルショップくれよん	☎042-578-2575
羽村市障害者就労支援センター エール	☎042-570-1233
指定特定相談支援事業所ゆい	☎042-555-5512